

G.T.N.

Get The News

リカバリーサポート・ネットワーク 2009年度『報告書』、相談件数1年間で前年比・約10%増の1,305件、月平均108.8件 貸玉の種類もレポート、「通常貸玉と両方を利用」を含めると「33%が低玉貸」を利用

特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク＝略称／RSN、代表／西村直之氏、本部／沖縄県中頭郡西原町＝は5月6日、『2009年度リカバリーサポート・ネットワークばちんこ依存問題・電話相談事業報告書』を発行。レポートによると、2009年4月1日から2010年3月31日までの間に1,305件の相談を受け、この件数は前年より約10%の増加。1ヶ月の平均件数は108.8件。月ごとの相談件数

は、4月から9月までの6ヶ月は、ほぼ120件を上回っていたものの、10月から減少が始まり、12月、1月は70件まで落ち込み、2月、3月は増加に転じた。相談件数は毎年冬場に向けて減少する傾向にあるが、「ホール利用者の変動とある程度関係していると判断。はっきりとした原因は不明だが、多くの相談を受けた月と、少ない月を比較すると無言・問い合わせの件数も大幅に減少していることが分かった。なぜ、冬場にこうした電話までもが減少するのか引き続き調査を」と総括して報告。更に「少しずつではあるが、依存問題への認知度は確実に高まってきている。ホール側がトイレ等に地道にポスターを貼り続けてくれた結果の表れと言える。もう一つの成果は、相談者の6割

以上が問題を持つ本人からの相談である点。のめりこみの問題は、家族は相談に繋がるものの、本人は相談に繋がりにくいと言われている。その中で、2006年の開設以来、4,327件の相談のうち56%にあたる2,408件もの相談を問題を持つ本人から受けていることは、当事者に情報やサービスが届いているということで、非常に大きな成果」と強調。新たな取組みとして2010年1月から電話相談の質問に「貸玉の種類」「1回の遊技時間」「1週間に遊技する頻度」「1ヶ月に使う金額」を追加。相談者に対して尋問口調にならないよう配慮し、可能な限り聞き出すよう努力を。3ヶ月分のデータも報告書へ併記。



『A4版で全34ページに及ぶ2009年度リカバリーサポート・ネットワークばちんこ依存問題・電話相談事業報告書』。昨年10月に特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を得て、活動も5年目に。過去データも併記